

ふみびと

第228号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

思いを返す 文通の楽しさ

人の思いが呼んだ奇跡

先日、テレビで放送されてきた、人と人の奇跡的な繋がりを感じるニュース。

伯父の葬儀に向かうために沖縄・那覇空港に向かう途中だったとある男子高校生が、航空券を購入するための代金6万円の入った財布を落とした時のこと。うなだれている高校生に一人の男性が「どうしたのか」と声をかけたそうです。

高校生が事情を説明すると、お互いの連絡先も交換しないまま6万円を渡した男性。疑問に思うことがなくはなかったものの、困った様子を見て「貸す」ことを決めたとのこと。

知人には「騙されたんだよ」と言われながらも信じていると、ある日同僚から新聞を通じて男性を探している人がいることを知らされたそうです。後日、直接会ってお金を返し、お礼をすること

となったという話でした。埼玉と沖縄。遠く離れた場所、連絡先も知らない二人。借りた高校生も名乗り出なくてもきつとバレない。手がかりが少なくて探すのは極めて困難。探すのを止める理由や諦めるタイミングは何度もあつたはずですが、それでも新聞に呼びかけまで探すという高校生の熱意が奇跡を生んだのだと思います。



毎日の生活に彩りを加えること

とはそれぞれの目標であったり、あるいは理想であったりする。

料理に彩りが加わると見栄えや味が変わるように、多彩を好む場面は少なくない。赤でも緑でもなんでもいい。一つの色で留まり続けるとき、今までにない新しい色をつけ足したくなるもので

ある。

多彩な色のある毎日に憧れる一方で、今の自分がモノクロの生活

新たな色を生む

にしているように思えてくるときもある。別の視点を手に入れることは、そう容易なことではない。紫外線

を見ることが出来るモンシロチョウ

ウの見る世界と私たちが見る世界とが大きく異なるように、実は今の自分の世界も毎日がカラフルだったということも別の視点や考え方

によっては成り立ちえる。様々な価値観や考え方を知らないと世界は多彩になる。人との出会いが新たな色を生むのだらう。

風にゆられて誰かに届け!
風船便

いつでも参加できますが、風船便の受取は新規の方へ優先されます。送付方法は簡単で、下の風船便切手を切り取って宛先に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。事務用封筒に貼って郵便局で封下流ししていただきます。

風船便

お知らせ

次回の発送日

次回発送は、通常通り31日です。

送りたいお手紙がある場合には、発送日の2日前(29日)までに事務局に到着することを確認の上、ポストに投函してください。

アイデア募集中

村人検察やふみ友リスト、メモ機能など皆様からのご意見などを参考に皆さんが楽しく文通ができるような仕組みを行って参りましたが、さらに皆様からのアイデアを募集いたします。「こんな機能があるといいなあ」をぜひ教えていただけると嬉しいです。

